

## 令和5年度事業報告

### 1、概要

甲賀市における65歳以上の人口（令和6年3月31日現在）の占める割合は29.3%の25,879人、シルバー人材センターの加入対象の60歳以上の人口は、35.5%の31,398人と過去最高を更新しています。

さて、令和5年度はこれまで社会経済活動に大きな影響を及ぼして来た新型コロナウイルス感染症もようやく収束の兆しが見え始め、様々な活動がコロナ前に戻りつつあるなか、世界各地では紛争が続き原油高や円安傾向における物価高騰など日本経済にも大きな影響が及んだ1年となりました。

こうした中ではありましたが、甲賀市シルバー人材センターは健康で働く意欲のある地域の高齢者に対して日常生活に密着した請負業務や企業の人手不足分野での派遣を中心とした就業機会の提供、会員が講師となる各種カルチャー講座、仲間づくりを目的とした同好会活動、地域活動への社会参加を目的としたボランティア活動、また、女性会員の増強を目的としたスポット講座や手作りの手芸品、講座の作品展示を兼ねたマルシェの開催など、「働く」・「学ぶ」・「楽しむ」・「参画する」を通じて生きがいがづくり、仲間づくり、健康づくりを再認識しながら地域高齢者の「居場所」と「出番」の創出に向き合っていました。

特に今や急務となっているデジタル社会への対応を促すべく、「デジタル利用推進事業」を活用しスマホ講習会、高齢運転者認知機能検査体験講習や携帯電話相談会を通じて地域高齢者のデジタルリテラシーの向上にも努めました。また、「高齢者活用・現役世代雇用サポート事業」を積極的に活用し派遣業務を推進したことや年間を通して「会員紹介カード」を活用した入会推進を実施したことにより事業実績は前年度に引き続き順調な伸びが見られました。

しかしながら、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律の改正や昨年10月よりスタートした「インボイス制度(適格請求書等保存方式)」では、請負事業における支払配分金に含まれている消費税分の仕入税額控除が段階的に認められなくなり、会員への負担軽減のため新たな費用負担が発生することになったことや令和6年秋から施行予定の「フリーランス新法」への対応が求められていることなど、シルバー事業にとってたいへん大きな課題を抱え、適切な対応が迫られることとなりました。

このような状況下ではありましたが、今後の在り方と目標を定めるため第3次中期計画の策定に取り組み、新たな目標を掲げ、地域の高齢社会を支える中核的組織として「働くこと」を通じて生きがいの再発見、介護予防の推進、医療費などの社会保障費の削減効果も期待できる事業として積極的な事業展開を推し進めてまいりましたので、その概要について報告します。

## 【事業実施状況】

### ①就業機会の確保・拡大

就業機会の確保・拡大を図るために就業支援アドバイザーの事業所等への継続的な訪問活動を通じて新たな仕事の開拓に努めました。

また、雇用・就業機会確保推進員を活用し、ハローワーク甲賀窓口での就業相談業務において就業ニーズを把握するとともに、スーパー業務等の人手不足分野への派遣業務を積極的に推進したことにより前年に引き続き順調な伸びがみられました。

請負、派遣事業と合わせた契約額が 361,118,140 円（前年 342,731,898 円）就業延べ人員が 64,935 人日（前年 64,220 人日）と前年に比べ契約額で 18,386,242 円、就業延べ人員では 715 人日の増となりました。

### ②会員の拡大

ハローワーク甲賀での就業相談や入会セミナーの開催、会員紹介カードを活用して入会促進に努めるとともにセンター広報紙「シルバーこうか」での入会関連の記事の掲載、あいコムこうかケーブルテレビのCM放映等会員増強の取り組みを実施、さらに前年に引き続き地元郵便局のデジタルサイネージ（電子看板）を活用し会員募集を呼びかけた結果、3 月末の会員数は前年度より 19 名増の 1,241 名（男性 688 名、女性 553 名）となりました。

特に女性会員は、シルバーマルシェやカルチャー講座作品展、手芸品等の展示コーナー、新たな女性向け講座（蕎麦打ち、手作り味噌）の開催効果もあり、前年度より 23 名の増となりました。

### ③安全・適正就業の推進

「安全は 心で注意 目で確認」を合言葉に掲げ安全適正就業委員会を中心に現場パトロールを全 11 回 26 か所で実施、安全就業の推進に努めました。

また、会員の更なる安全意識の高揚を図るため、安全就業推進大会や交通安全講習会の開催、高齢運転者認知機能検査体験講習の実施やこうか安全ニュースの発行を通じて啓発に取り組み、就業中の事故防止に努めました。その結果、事故件数は傷害事故が 7 件、賠償事故 1 件、車両事故 1 件の合計 9 件と草刈機による飛石事故は発生しなかったものの傷害事故が前年より 4 件も増加しました。

一方、適正就業においては厚生労働省より示された適正就業ガイドラインを活用し、請負、派遣、職業紹介の就業形態別の働き方について周知するだけでなく、同一労働同一賃金を目指し比較対象労働者の待遇情報を派遣先より提供いただき適正就業に取り組んでまいりました。

#### ④普及啓発の推進

センターの活動内容を広く周知し、シルバー事業に対する理解と就業機会の拡大、会員増強に繋げるために高齢者活躍人材確保育成事業の講習会と県連合会主催の講習案内を兼ねた啓発パンフレットや広報紙「シルバーこうか」を新聞折込にて市内全戸に配布しました。さらに滋賀銀行水口支店のロビースペースをお借りしてカルチャー講座の作品展を兼ねた事業の啓発に努めました。

また、はじめて国際交流フェスタやあいの土山宿場まつりでも啓発品を活用した事業周知に努めました。ホームページでは就業情報等を随時更新、並行して SNS (Facebook) を活用し最新の情報発信に努めました。

#### ⑤組織の充実強化

毎月発行の会報「シルバーだより」を通じて事務局と会員との連携強化を図り、会員の自主、自立のもと効率的な事業運営が推進できるように努めました。特に事務効率の向上を図るため、ICT (情報伝達技術) を活用した取組みとして就業情報等はスマホからのQRコードを活用し、スピーディーに様々な情報提供ができるよう努めました。

また、インボイス制度の対応については、基本的には事務費率の引上げで対応することとし、引上げ時期については、今後各年度の収支決算状況等を踏まえ慎重に判断することにしました。

#### ⑥技能講習会等の実施

高齢者活躍人材確保育成事業、デジタル利用推進事業を活用しデジタルリテラシー向上のため、地域高齢者のスマホに関するお困りごとの講師を養成する「スマホマスター講習会」を全10回開催いたしました。

また、過去の講習会修了者の中から地域高齢者のスマホでのお困りごとをマンツーマンで解決する「スマホ相談会」に加え、デジタルデバイスの必要性を感じていただくひとつの方法として、市内各地域で「出張初級スマホ教室」を計8回開催、地域の高齢者にインターネットやアプリの使い方を学びスマホが便利なツールであると理解いただき、わずかながらもシルバー世代のデジタルデバイドの是正に努めました。

昨今の高齢者の交通事故が取り沙汰されるなか、免許更新時に実施される認知機能検査を事前に体験できるアプリ「MOG I」を導入、スマホマスター会員がナビゲーターとなり、受講者にタブレットを使った検査を実施、延べ134名の方に体験いただき、免許更新時の選択を考えていただく機会を創出いたしました。

## ⑦福祉・家事援助サービス事業等の推進

市の実施する高齢者障がい者安心生活支援事業との連携を図り、介護保険では適用されない軽易な作業（ゴミ出し、清掃など）を受注しました。件数は30分未満112件、1時間未満49件で合わせて161件を受注しました。

また、介護予防への取り組みとして、認知機能みまもりAIアプリ「ONSEIプラス」を導入し、登録会員の健康管理を始めました。これにより会員自らが健康管理を行う意識を醸成するとともに日々の体調を確認し事故やケガを未然に防ぐことで介護予防の一助となるように努めました。

## ⑧独自事業等への支援

独自事業として実施している甲賀野菜ブランド化推進事業では、かんぴょう、にんにく、里芋等の環境こだわり野菜を、センター玄関野菜販売コーナー、JA花野果市、あいの土山道の駅、水口城資料館の催しなどで展示販売し甲賀まんてん野菜のPRに結びました。

また、生き生き生活支援事業では、編み物、太極拳、パッチワーク、英会話、人形作り、布絵、リズム体操、大正琴、切り絵、実用習字、鉛筆デッサン、絵手紙、詩吟、二胡、アクティブブレイン、健康体操、リズム体操、社交ダンスのカルチャー講座を開催、一般の方も含めて延べ3,471名の方にご参加いただきました。

## ⑨労働者派遣事業及び職業紹介事業の実施

滋賀県シルバー人材センター連合会、ハローワーク甲賀との連携を図り、国の補助事業である「高齢者活用・現役世代雇用サポート事業」を活用し、臨時的かつ短期的な雇用就業を希望する地域高年齢者に対して労働者派遣事業による就業機会の提供を実施しました。この結果、283名の方が就業されました。

## ⑩地域社会貢献の実施

地域社会貢献及びシルバー事業を広く周知する普及啓発活動の一環として、滋賀県シルバー環境美化週間中の10月20日（金）に市内各地域において288名の参加のもと一斉清掃ボランティア活動を実施しました。

また、新たな取り組みとして「歩いて健康！ゴミ拾いで地域貢献！」を合言葉に清掃ボランティアウォーキングやご家庭で余った食品を寄贈するフードドライブ活動もスタートさせ、SDGsの推進に配慮した活動にも積極的に取り組んでまいりました。